

## 意見書

淀川水系流域委員会 様

私は、今審議されています「川上ダム建設計画」に下記の理由で反対いたしますので、委員会で審議され国交省に出される意見書には「川上ダム建設中止」と明記されるように要望いたします。

2005年9月18日

住所 三重県伊賀市  
意見具申者 氏名 山田 明

## 記

阪神淡路沖大地震のことは忘れていないと思いますが、あの地震の原因のひとつが関西新空港と明石海峡大橋です。巨大な人工構造物を造り、その加重が付近の地殻にどのように影響を及ぼすかだれにも予測がつかない。机上で計算し安全であると想定したところで、あくまで想定であって、だれが絶対に安全であると保障するのでしょうか。

わたしはどこかにならず影響がでるものと思っていましたが、それが最悪の事態になって多くの死傷者や損害を出しました。

現に今も既存のダムでも周辺に小さなダム地震が頻発に起きている所があります。川上ダム建設予定地ではダム本体付近に推定活断層が有り（三重県配布の「わが家の防災情報シート」参照）、この上に巨大なダムを造って安全だという保障はだれがしてくれるのでしょうか。又これから何百年と事が起きたときはだれが責任をとるのでしょうか。

私たちが考えなければならないことは、目先の事ではなく、これから将来私たちや私達の子どもの事を視野にいれなければならないと思います。

自然を人間だけの都合で大きく改造したりするのでは無く、自然をあるがままに受け入れて、その恩恵を知恵をもって活用するべきです。

利水でも有り余るほどの水がいるのでしょうか。中水利用や雨水利用もあります。まだまだやってないことがあるのではないのでしょうか。まずはそれをやるのが先決ではないのでしょうか。

治水もダムは全体の1割程度しかホロー出来ていないのですから、まだまだ知恵を出し合い、いろんな対策をとれば巨額な出費を押さえることができるのはずです。

自然を一度大きく変えてしまえば、それを回復させるには何百年かかるかわかりません。それは自然界の調和が回復するのに何百年もかかるということであり、それはそのまま以前と同じに戻れるという保障もありません。そのしっぺ返しが必ず人間にもやってくるでしょう。

おろかな結果をまねかないために、今こそダム建設中止の決断をすべきです。

委員会が「ダム建設中止の決断」をしていただいても、国交省がダム建設を実行するなら、ダム建設推進した人たちの名をダムに刻み永遠に残るようにしていただきたい。その中に名を残せない様な人にはダム建設推進を言う資格はない。